

新婦人しんぶん

新日本婦人の会目的

- ☆核戦争の危険から女性と子どもの生命をまもります。
- ☆憲法改悪に反対、軍国主義復活を阻止します。
- ☆生活の向上、女性の権利、子どものしあわせのために力をあわせてます。
- ☆日本の独立と民主主義、女性の解放を勝ちとります。
- ☆世界の女性と手をつなぎ、永遠の平和をうちたてます。

今週の紙面

- 2面 女性ニュース ■3面 読者のページ/まんが/パズル
- 4・5面 健康保険証廃止でどうなる!/?/気候正義って?/ホットライン ■6面 「巻き肩」とは? セルフストレッチで改善を/文化情報 ■7面 新婦人の活動/主張/母の歴史



新日本婦人の会は国連に認証されたNGOです

世界はいろいろな色をしている

国内外のいろいろな人の話を聞き、スケッチのような軽快な文と似顔絵で世界の豊かさを伝える金井真紀さん。2022年から始まった「難民・移民フェス」の呼びかけ人でもあります。「多様性をおもしろがる」がモットーの金井真紀さんに話を聞きました。
(イラストはすべて金井さん)

難民・移民フェス 世界の人々を描く

文筆家・イラストレーター

金井真紀さん



彼女たちに会ってみたい

4月に出版された『それはわたしが外国人だから?』(安田菜津紀さんとの共著、ヘウレーカ)が話題ですね。これまでに多くの著書で海外のいろいろな人に話を聞き、似顔絵で紹介しています。

「4月に出版された『それはわたしが外国人だから?』(安田菜津紀さんとの共著、ヘウレーカ)が話題ですね。これまでに多くの著書で海外のいろいろな人に話を聞き、似顔絵で紹介しています。

先日もイランから帰ってきました。イランの女性たちを紹介した新著『テヘランのすてきな女』(晶文社)の最終確認のためです。この本では、看護師や絵師、国を相手にたたかう弁護士、バイセクシュアルの大学生、頭にスカーフを巻いて全身黒い服で四股を踏む女子相撲部...など、全部で30人くらいにお話を聞いて、絵を描きました。

でない人もいます。彼らに会ってみたかった。「イランはあぶない」というイメージで周りの人にも心配されたんですけど、実際に行ってみたら現地ではみんなのんきで。美しい街だし、たぶんみんなこの国を好きになりますよ。行ってみたいと、会わないと分からないですね。

一人ひとりの歴史がある

「日本に住んでる世界のひと」(大和書房)では、日本にいる外国籍の人がどうやって暮らしているかわかります。

日本国内にはすでにたくさん、外国にルーツを持っていく人が住んでいます(2023年末34

1万992人)。彼らは実に多様で、一人ひとりに歴史があって、いろいろな思いで日本で暮らしている。北マケドニアから来た大道芸人、労働組合で仲間を守るフィリピン人、大阪の彼氏と遠距離恋愛中のバルバドス人、仕事を求め来日し75年が経った韓国のハルモニ。

そして、さまざまな理由で母国から逃げて来日し難民申請中の人や、日本で長く働いてきたのに在留資格を失った人もいます。日本は2023年、1万3823人が難民申請して認定されたのは303人と、世界でも極端に難民に厳しい国です。さらに、今年6月から入管法の改正(出入国管理及び難民認定法改正)が施行され、申請が3回以上通らなかった人は強制送還が可能になりました。

申請中の人も含め、滞在する資格がない場合にかろうじて生活できる「仮放免」の人が3300人います。彼らは、社会保障も労働も、許可がなければ県外の移動も認められない生活をしています。彼らに出会って私たちは何ができるんだと考えた。それで、仮放免の人がふるまってくれたチリ料理のエンパナダ(ひき肉などを包んだパイのようなもの)を食べながら、「難民・移民フェス」を思いついたんです。



▲ステージであいさつする金井さん(写真右)



第3回、第4回の難民・移民フェスのようす。物販やワークショップを通して、難民・移民の人たちの背景を知り、チャリティ形式で支援することができる(上) ステージを見る参加者(右)(写真提供:難民・移民フェス実行委員会)



2面へ

